

2011年度

第42回 博報賞 推薦要項

この度、「博報賞」は第42回を迎え、推薦受付を開始いたしましたので、ご案内いたします。

今年度から、推薦受付期間を6月30日まで延長いたしました。

あらゆる教育実践の場における、優れた実践活動、今後のモデルともなる新たな視点での取り組み、また長年積み重ねた地道な活動など、幅広い実践活動の中から「博報賞」候補者のご推薦をお願い申し上げます。

2011年4月1日

子どもたちと、未来のあいだに

博報財団
HAKUHO FOUNDATION

1. 目的

博報賞は、児童・生徒の「豊かな人間性育成」に貢献・努力されている学校・団体・教育実践者を顕彰することを通して、児童教育の現場を活性化させ、支援することを目的としています。

2. 推薦対象

小・中学生を中心とする児童生徒に対し、下記の分野で顕著な業績をあげている団体（小学校、中学校、研究団体、ボランティア団体など）、個人（実践活動を推進されている先生、研究者、ボランティアの方々）。

3. 部門と活動範囲

私たちは「豊かな人間性」を育むには、「ことばの教育」が担う役割が大きいと考えます。「ことば」は、知識を吸収し、物事を理解し、考え、説明するために欠かせないものです。また、「ことば」による複雑な概念的思考や洗練された情緒表現を身につけること、その「ことば」が生まれた国の歴史・文化・風土などの背景も含め、深く「ことば」を理解することが、豊かな人間として成長していく上での大きな糧となります。

こうした考えから、博報賞は、「ことば」と「文化」を重視した5つの部門で構成されています。

部門名	活動範囲
国語・日本語教育部門	国語・日本語教育の諸分野における実践・指導・研究 ・考える力、感じる力、想像する力、理解する力、表す力、伝える力の育成 （話す、聞く、書く、読む、プレゼンテーション、ディベート、交渉力、情報リテラシー、メディアリテラシー等） あらゆる学びの場におけることば教育の実践・指導・研究 （例）「読む、書く、話す」の領域において「考える力」をつける国語教育の推進 在日外国人児童の日本語学習をサポートするボランティア活動 教科横断により「思考力・判断力・表現力」の活用力を育てる実践
特別支援教育部門	特別支援教育の諸分野における実践・指導・研究 ・ノーマライゼーション理念に則った教育的支援活動 （視覚障害、聴覚障害、言語障害、肢体不自由、身体虚弱、知的障害、情緒障害、LD、AD/HD、自閉症等） （例）地域の親が推進する、障害を持つ子どもたちへの個別指導、自立支援活動 公立学校における特別支援教育の校内支援体制 聴覚障害生徒が自己表現の手段として打ち込む写真部の活動
日本文化理解教育部門	日本文化を理解する教育の諸分野における実践・指導・研究 ・伝統文化、現代文化、生活文化、地域文化などに関する学習、継承を通して、日本の文化を大切にすることを育み、日本人としての自己の確立を目指す教育 （例）小・中学校が一緒に取り組む地域の伝統文化伝承活動 地域の食文化を学ぶ地産地消活動と食の教育 日本の美や文化を理解する心を育む実践と指導法の研究
国際文化理解教育部門	国際理解教育の諸分野における実践・指導・研究 ・国際交流、異文化理解など、諸外国の文化の固有の価値を理解し、それを基礎として、国際性豊かな人間性を身につける教育 （例）外国人在住地区における多文化共生の学校づくり・地域づくり 自らの文化を愛する心と異文化に対する開かれた心の育成 諸外国の課題解決に取り組む未来の国際人育成
教育活性化部門	上記以外の分野で、多様な場における教育の変革を促進する実践・指導・研究 ・新しい教育テーマ・方法等の開発や独創的、革新的な学校・授業改革 ・学校・地域・保護者などの連携による、また学校以外での学びの場づくりなど、人間力を育てる実践活動 （例）学生・青年会議所・市民ボランティアの協力による体験教育の地域活動 子どもが主体となって地域で活躍するヘルパー活動 生きる力を育むためのキャリア教育の実践

4. 贈呈数と内容

- ◆贈呈数 5部門合わせて20件前後
- ◆内容 対象5部門の受賞者に正賞及び副賞を贈呈します。

正賞	賞状
副賞	100万円
- ◆文部科学大臣奨励賞 博報賞5部門の受賞者の中から特に奨励に値するものとして、文部科学大臣奨励賞が授与されます。

5. 推薦について

- ◆以下の教育関係の第三者の**推薦により**候補者を募ります。(自薦不可)
 - ・都道府県市区町村教育長
 - ・学校長会会長
 - ・都道府県私学協会会長
 - ・博報賞5部門に関する教育研究団体の代表
例：全国国語教育実践研究会、全国特別支援学校長会、国際交流協会の代表
 - ・大学教授など学識経験者（候補者の活動に直接関わっていない方）

6. 審査について

- ◆審査方法
 - ・提出された「推薦書」「審査資料」をもとに審査委員会において審査、選考し、受賞者を決定します。
- ◆博報賞審査委員（○印は審査委員長）〈部門別 五十音順〉

<u>国語・日本語教育部門</u>		<u>特別支援教育部門</u>	
井上 一郎	京都女子大学・大学院教授	柘植 雅義	国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員
寺井 正憲	千葉大学教授	四日市 章	筑波大学・大学院教授
<u>日本文化理解教育部門</u>		<u>国際文化理解教育部門</u>	
押谷 由夫	昭和女子大学大学院教授	結城 恵	群馬大学教授
新富 康央	國學院大學教授	吉谷 武志	東京学芸大学教授
<u>教育活性化部門</u>			
鹿毛 雅治	慶應義塾大学教授		
○嶋野 道弘	文教大学・大学院教授		

7. 推薦手続きについて

- ◆推薦書
 - ・推薦書は所定枠内（A4 2枚表裏）に漏れのないようにご記入の上、「**推薦者の捺印**」後、郵送にて当財団宛お送りください。電子メール、FAXではお受けできません。（送り先は裏面参照）
 - ・推薦書は、下記の方法でご利用頂けます。
 - ①当財団ホームページからPDFファイル、Wordファイルをダウンロードできます。
 - ②当推薦要項にはさみ込みのものをご利用下さい。
 - ・パソコン、ワープロで作成の場合は、はさみ込みの推薦書と同じ様式、サイズ（A4 2枚表裏にコピー）をお願いいたします。
- ◆審査資料
 - ・審査資料として実践記録、刊行物、映像資料、学校要覧などを**5～6点に絞り**、添付して下さい。
 - ・審査資料には一点ずつ**全てに、候補者名**（団体名・個人名）を明記して下さい。
 - ・映像資料は、DVDまたは、VHSビデオをお願いいたします。内容は、**審査対象となる部分のみ**収録して下さい。
 - ・審査資料は、審査終了後（12月下旬頃）**候補者に直接返却**いたします。
- ◆推薦受付期間

2011年4月1日（金）～6月30日（木）財団必着

8. 受賞者の発表

- ◆発表 2011年9月下旬、受賞者、推薦者にご通知すると共に、文部科学省文部科学記者会において、全国の報道機関などに発表いたします。

博報財団（正式名称：公益財団法人博報児童教育振興会）は、1970年に設立された財団法人博報児童教育振興会を母体として公益認定され、2011年4月に公益財団法人としてスタートしました。

次代を担う子どもたちの豊かな人間性の育成のために、児童教育の実践者を顕彰する「博報賞」をはじめ、「児童教育実践についての研究助成事業」「日本語海外研究者招聘事業」「世界のこども日本語ネットワーク推進事業」など、「ことば」「文化」の領域を中心に児童教育の支援につながる活動を行なっています。

公益財団法人 博報児童教育振興会
HAKUHO FOUNDATION

〒107-0052 東京都港区赤坂2-11-7 ATT新館8階

Tel 03(5570)5008 Fax 03(5570)5016

<http://www.hakuhodo.co.jp/foundation/>